



こころ 心つながり えがお 笑顔ひろがり せかい 世界へはばたく
がっこう

学校だより

よこはまし りついい だきた しょうがっこう
横浜市立飯田北いちよう小学校
れいわ ねんど がっこう
令和8年度 7月号
れいわ ねん がつ にちはっこう
令和8年6月26日発行

あいて なかま そんなちよう
相手も仲間もリスペクト（尊重）する

既尊重你的对手，也尊重你的队友。

Tôn trọng cả người đối diện lẫn bạn bè

こうちよう さいとう ようじ
校長 齋藤 容二

子どもたちの成長、頑張る姿

6月、4・5年生は愛川宿泊体験学習を行いました。子どもたちが進んで準備を行い、自分の役割を理解しながら友達と協力して取り組むことができ、どの子も大きく成長する機会となりました。また、たてわり活動では6年生がリーダーとなって下学年のみんなをまとめ、一緒に遊びを行いました。子どもたちの成長、頑張りがたくさん見られています。

サッカーのワールドカップでの喜びと残念なこと

自分の応援しているチームがよい結果を得たり、素晴らしいプレーを観たりできることは、本当にうれしいことです。誰もが勝利を目標とし、勝てば喜び、負ければ悲しむことは当たり前のことですが、様々な背景の中、懸命にプレーする選手やスタッフの努力を思うと、どのチーム、どの選手のことにも応援したくなります。

しかし、私がテレビで試合を観戦しているとき、とても残念なことがありました。それは、試合の解説者が相手の国の選手のことを、「こいつ」とか「うざい」とか言っていたことです。そしてさらに、試合後にはこのような発言を含めて、この解説を「正直でよい」といった感想が報道の中で多く聞かれたことでした。本当にこれがよいことなのでしょうか。公共の放送、報道で広まる中、大勢の人が同じような考えをもったことにも憤りを感じています。（ある学校では、相手の国のことをばかにする言い方をする子どもが見られた、と友人から聞きました。）

一緒に競技する人をリスペクトし、称え合う

サッカー大国ドイツの選手育成では、国の方針として子どもの頃から一貫して、「チームメイトや相手選手をリスペクトする」ということをとても大切にしているそうです。競争心は自然にあるものですし、自分を高めるために目標をもつこともよいことです。しかし幼いころから勝つこと＝結果ばかりを求めることは、人としての成長によくないこともあると分かっているのです。

先日観た陸上競技の日本選手権で感動的な場面がありました。それは、優勝した選手を、他の選手たちみんなが祝福している姿でした。まるで自分のことのように喜び、相手選手を祝福しているのです。スポーツでは「グッド・ルーザー」（敗北を潔く認め、勝者や周囲の人に敬意と感謝を示せる態度）とも言われます。応援する私たちも、相手やより多くの選手のよいプレーに心から拍手を送れるようになりたいです。

誰のことでも尊重できる子どもが育つ学校に

解説者に悪い言葉を言われた国では「侮辱された」と大きく取り上げられました。当然です。学校では、私たち大人がよい手本となり、人と人との関係を大切にする取組をこれからも進めます。子ども同士がお互いを尊重し、よりよい関りができる学校を目指していきたいです。